

## 日本ゼオライト学会会長メッセージ

(横浜国立大学大学院工学研究院 教授) 窪田好浩



(1) 本学会は個人会員、学生会員、名誉会員、シニア会員を合わせて 300 名強、法人会員 36 団体からなる学会です。日本化学連合の正会員である 14 学協会の 1 つであるとともに、規則的なナノ空間をもつ多孔質材料の研究者が集まり、基礎から応用にわたる高度で多彩な研究活動と活発な情報交換を行う場となっています。比較的小規模であることから、世の中の変化への柔軟な対応力とアットホームな雰囲気が大きな特長と言えます。本学会の前身は、第 7 回国際ゼオライト会議 (International Zeolite Conference; IZC) を 1986 年に東京で開催するため 1984 年に発足した「ゼオライト研究会」です。その後 1997 年に「ゼオライト学会」に改称された後、2016 年に当時の運営メンバーの尽力により法人化を果たし、「日本ゼオライト学会」として現在に至っています。ゼオライト関連科学分野の研究開発は、国連が掲げる SDGs の多くにフィットしています。その意味で、資源・エネルギー・環境関連のみならず医療、創薬、食品、農業といったライフサイエンスを含む、より広い分野の研究者を迎え入れたいと考えています。特に重視する要素は、①若手のエンカレッジと育成、②国際的コミュニティーへのコミットメント、③産官学連携です。ゼオライト科学の分野はとりわけ産業界との関りが深いため、本学会を通じた産官学の強固なつながりは、科学技術のイノベーションに直結します。日本が科学技術立国を維持するためには必須の要素です。

### (2) 学会の使命と現状の課題

本学会の使命：ゼオライト関連科学の啓蒙活動・研究レベル向上・人材育成

現状の課題：産業界とアカデミアが連携しやすい場の構築・維持

(3) 現学会は最新研究・教育の場となっており、蛸壺化や閉塞感はないと考えていますが、今後、より分野横断的でオープンな環境作りに留意します。

### (4) 政策提言・要望

電子ジャーナルや化学系検索ツールが高騰を続けており、国内の各研究機関単独ではいずれ対応できなくなると思われます。また、個々の研究機関で化学系の部局は必ずしも優遇されていません。日本化学連合等からの発信によって、国を挙げてのより組織的な対応につなげられないでしょうか。

### (5) 化学連合へ期待すること

- ・化学系研究機関に政府の政策動向を伝えるパイプ役となる組織
- ・関連法規や税制の改訂のたびに煩雑になる各種届出への支援など、化学系各学会共通の運営上の問題を協力して解決する組織
- ・細分化された化学系各学会のうち存続困難な学会の再編をコントロールする調整役となる組織等としての期待があります。